

二〇二〇年新春特別公演

沢村豊子

の世界
in大倉山記念館

公演内容(構成)
沢村豊子のお話し
質問者:パギヤン
お仲入り(休憩)
パギヤン・浪曲
曲師:沢村豊子



写真:堀引典久

2020年1月4日(土) 大倉山記念館ホール

午後1時30分開場 午後2時00分開演 **全席自由席で、80席限定**

	前売券	当日券
料金	3000円	3500円

大倉山記念館のご案内

●東急東横線大倉山駅下車 徒歩7分
※一般ご来場者の駐車場はございません
ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください

チケットのお求めとお問い合わせは

ホームページ「芸人三昧」のHPの申込のページから簡単に購入ができます。

<http://geinin2syoutukubai.com/>

「芸人三昧」で検索してください

メール→erbu@kf.netyou.jp

電話&FAX→045-568-5947(常時留守電)

当方は、常時留守番電話です。当方から折り返し電話しますので、留守電のメッセージ通り、録音願います。携帯電話で登録電話番号以外を着信拒否にしている方は、解除願います。前売券の販売は、公演日前日の午後7時までです。会場への直接の問い合わせはご遠慮願います





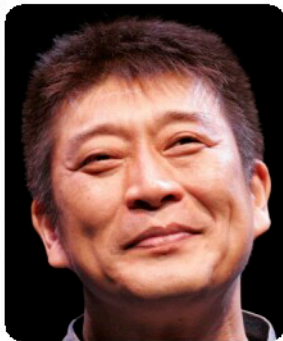
沢村豊子

さわむらとよこ
曲師（浪曲三味線奏者）。

十二歳の時から山本艶子師の指導で浪曲三味線の修行にはいる。テレビ、レコードでは三波春夫、村田英雄、二葉百合子などの三味線も弾いた。とりわけ国友忠によつて浪曲化された『銭形平次』の連続ラジオ小説は十二、三年担当し、国友との共演で一世を風靡する。近年においては、ベテランから若手まで隔てなく曲師を務め、多くの舞台や放送をこなす。音色の美しさには定評があり、今、日本一の曲師！

バギヤン

大阪市西成区出身の在日韓国人ミュージシャン&歌劇派芸人。愛称は「浪花の歌う巨人・バギヤン」。デビュー以来、メジャーシーンで扱われない題材・テーマにこだわって表現活動を続けている。二〇〇二年から、同じ在日の芸人であったマルセ太郎の得意演目「スクリーンのない映画館」（映画再現芸）に独自の視点を加味した「声体文藝館」の公演を開始する。代表作は『ホテル』『砂の器』『青春の門・筑豊編』『泥の河』『パッチギ！』『キクとイサム』『マルコムX』『風の丘』を超えて『西便制』など。



芸人三昧

二〇〇六年三月二十六日発足の横浜で至芸を見ることを目的とする芸人が好きな人が集まった会です。「越博（バギヤン）を応援する会」として発足しましたが、会の活動内容が広がったことから、二〇〇七年七月七日に会名を「芸人三昧」と改称して公演を行なっています。TVなどでは、決して親れない、会場に足を運んで、生で親ないと堪能出来ない芸人や文化人を厳選して公演しております。

過去の主な出演者

浪花の歌う巨人・バギヤン、松元ヒロ、ミスター梅介、伊藤真、無着成恭、永六輔、伊藤泰久、楠美津香、盧佳世、玉川奈々福、沢村豊子、柳家松太郎、高信太郎、川柳川柳、川柳つくし、寿 [KOHJIKI]、だるま食堂、はるまきまき、オオタマセリ、東海林のり子、一色涼太、矢野敏広、林家三楽、三増敏之助、ダメちゃん小出、石口師岡、仲八郎、山根二郎、東京ボーイズ、など。

大倉山記念館

八十年以上の歴史を誇る建造物。現在の大倉山記念館は、実業家で後に東洋大学学長を務めた大倉邦彦により一九三二年「大倉精神文化研究所」の本館として創建されました。設計は、北海道銀行本店、横浜正金銀行東京支店など重厚で格調高い建築を数多く手がけ、日本建築史に大きな足跡を残した古典主義建築の第一人者、長野宇平治です。

研究所の設計をするにあたり、「東西文化の融合」を掲げた大倉邦彦の理想に深く共鳴した長野は、古典主義にとらわれないこと、古代ギリシャ以前の「ブレヘレニク様式」という世界的にも希少な建築様式を用いたのみならず、東洋の意匠も取り入れ、まさに東西文化が溶け合った独特の様式美を持つ建造物を創り上げました。

一九八一年横浜市が寄贈を受け、大改修のうえ建物の保存を図るとともに、一九八四年大倉山記念館として生まれ変わり、一九九一年には横浜市指定有形文化財に指定されました。

また、ギリシャ神殿様式のピロティ、昭和初期の雰囲気を残す第五集會室、神社建築の木組みを取り入れたホール、エントランスなど、映画やテレビのロケ地としても数多く活用されています。